

事務事業名		消防・防災訓練事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業																									
政策体系	政策名	015 やすらぎある安全なまちづくりの推進		事業期間																									
	施策名	22 防災対策の推進		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和48年度～)																									
	基本事業名	02 地域防災体制の強化		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																									
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 09 01 02 12																									
所属	部課名	大船渡消防署		事務事業区分																									
	課長名	菊池 一夫		☒ A 政策事業 ☐ B 施設整備 ☐ C 施設管理 ☐ D 補助金等 ☐ E 一般(A～D以外)																									
	係名	消防団係	電話 27-2119																										
	担当者	石橋 良	内線 433																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・消防出初式や春季消防演習は、多くの来賓(主に議会関係や消防関係者)の列席のもと、全団員・全車両(留守部隊を除く)による分列行進や、訓練等を行い、また、組織をあげて厳粛な式典を行っている。特に市内における分列行進は、市民に大きな安心感をあたえらるとともに、あわせて火災予防の意識高揚に意義のある行事と考えている。 ・防災訓練は、消防職団員による避難訓練や情報伝達訓練等を行うほか、消防関係者と地域住民が参加した総合訓練を実施している。 ・消防操法競技会は、H23～24年度は震災により未実施であるが、平成25年度より市内大会を再開した。競技種目は自動車ポンプの部、小型ポンプの部に分かれており、分団各部ごとに配備されている機器で出場する。上部大会は岩手県消防協会気仙支部大会がある。(岩手県大会、全国大会は2年に1回開催されている。)事業費は費用弁償として支出する。 ・令和元年度大船渡市消防操法競技会において、ポンプ車の部で第5分団第2部が、小型ポンプの部で第5分団第1部が優勝した。																													
全体計画(※期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="6">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
	事業費計(A)	0																											
人件費	正規職員従事人数																												
	延べ業務時間																												
	人件費計(B)	0																											
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

- ・消防出初式実施
- ・春季消防演習実施、防災訓練
- ・大船渡市消防操法競技会

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

コロナウイルス感染症の影響により春季消防演習、消防操法競技会は中止。消防出初式、秋季消防演習、防災訓練は実施予定。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

大船渡市消防団員

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

消防出初式、秋季消防演習及び防災訓練を通じて、消防団員の士気高揚及び災害対応能力の向上と市民への火災予防を含めた防災意識の高揚を図る。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

出火時等、災害出動に際し的確な消防活動ができる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 春季消防演習	回
イ 防災訓練	回
ウ 大船渡市消防操法競技会	回

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 大船渡市消防団員	人
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 春季消防演習参加	%
シ 防災訓練参加	%
ス 大船渡市消防操法競技会参加	%

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	7,099	7,998	3,583	7,435	6,472	8,149	
		事業費計 (A)	千 円	7,099	7,998	3,583	7,435	6,472	8,149	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時 間	720	720	720	720	720	720	
		人件費計 (B)	千 円	2,880	2,880	2,880	2,880	2,880	2,880	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	9,979	10,878	6,463	10,315	9,352	11,029	
⑤活動指標		ア	回	1	1	1	1	1	1	
		イ	回	1	1	1	1	1	1	
		ウ	回	1	1	0	1	1	1	
⑥対象指標		カ	人	966	944	927	891	884	1,084	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	%	64	70	67	61	62	90	
		シ	%	66	68	66	65	64	90	
		ス	%	79	80	0	80	78	90	

事務事業ID	1105	事務事業名	消防・防災訓練事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和27年4月1日大船渡市市制施行と同時に大船渡市消防団となり、平成13年11月15日大船渡市と三陸町が合併したことにより、旧大船渡市消防団と旧三陸町消防団が統合し大船渡市消防団として現在に至っている。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

消防団の演習等については多様化する災害を教訓に年々高度な訓練を行っている。分列行進時には沿道に出て激励する多くの市民がおり、行進している消防団員の励みや誇りとなるとともに、市民に安心・安全を与えている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

大船渡市消防団員は与えられた使命のために自信と誇りをもって行動していることから、多くの市民から期待されており、安心安全なまちづくりに貢献していると、意見が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 火災や水害、地震津波等の災害が発生したとき適切な消防活動が行われている。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 市町村は当該市町村の区域における消防を十分に果たすべき責任を有することから公共関与は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 大船渡市消防団員が対象であることから適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 現状で成果が十分上がっている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 全団員が一同に集合しての訓練や式典はこの機会しかなく、大船渡市消防団の組織行動を確認する上で重要であり、廃止や休止は消防団の組織活動衰退につながり、防災部門を担う最大の力を失うことになる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 消防出初式、消防演習、消防操法競技会は大船渡市消防団の行事の中で最も重要であり、参集するための支出を削減することはできない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 大船渡市の消防団事業であるため他に委託することはできない。また、効率のよい業務時間設定を行っているため、削減余地がない
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 大船渡市消防団の事業であるため、その費用の負担は公費によるものが適切である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																					
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	人口減少に伴い消防団員数も減少傾向にある。組織は一人ひとりの集まりで成り立っており消防団員の入団促進を機会ある毎に行っている。出初式、消防演習、消防操法競技会は市民の目に触れる絶好の機会でもあり、市民のために貢献する崇高で魅力溢れる団体であることを広くPRし、若い人たちの入団を働きかけなければならないと考える。